ベジフル歳時記

1月15日は「いちごの日」

シニア野菜ソムリエ●KAORU

全国いちご消費拡大協議会が「115＝いいいちご」の語呂合わせで制定したのが始まりです。もともと露地栽培が主流だった時代は、イチゴの旬は春から初夏でした。しかしハウス栽培が増えたことで今では秋から出回り、クリスマス需要も重なる12月にはずらりと店頭に並びます。そして1月中旬は出荷も本格化するころ。まさに現代の旬を考えるとイチゴの記念日としてはぴったりの時期なのです。

　赤くて見た目にも元気をもらえるイチゴは、冬のパーティーシーンを華やかに彩る食材として大活躍ですが、実は体にうれしい成分も豊富に含んでいます。特にビタミンC、葉酸、食物繊維が多く、ビタミンCは5～6粒食べれば成人の1日の目標摂取量がカバーできるほど。免疫力が落ちて風邪をひきやすい寒い季節には積極的に取りたい栄養素で、生のまま食べると効率的に摂取できるのも魅力です。

　デリケートで鮮度劣化も早いため、風味や香り、栄養価を期待するなら早めに食べるのがお勧めですが、すぐに食べ切れないときにはへたを除いて冷凍保存を。凍ったまま牛乳やヨーグルトとミキサーにかければ簡単にジュースの出来上がり。ジャム作りにも解凍せずに利用できます。

　かつては、西の「とよのか」、東の「女峰」ともいわれ、人気品種が二分されていましたが、今は各都道府県に一押し品種が存在するほどバラエティーに富んだ品種が登場。味わいや食感、見た目も個性があり、好みの品種を選べることも楽しみの一つです。なかでも近年話題になった白いイチゴは、赤いというイチゴの概念を覆した新品種。今後も新しいイチゴが登場するかもしれませんね。

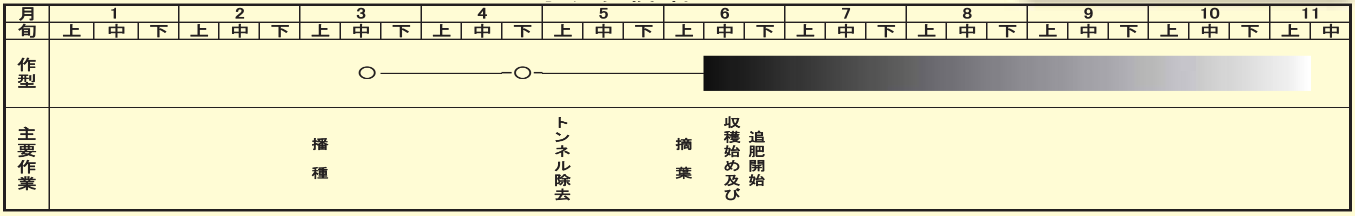
野菜

オクラ栽培について

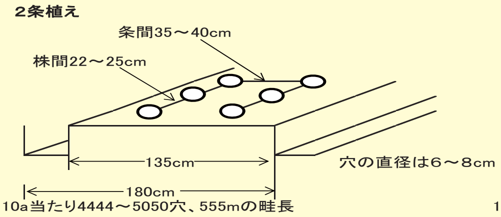
野　菜

平田　優輝

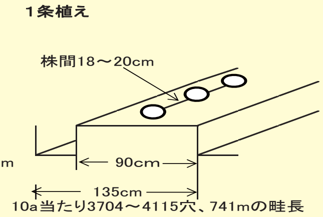
下島営農指導センター
080-1729-1639



作業項目	
播種準備	●元肥は全面施用する。元肥の施用が多すぎると、初期生育が旺盛となり花止まりが悪くなるので、肥料の種類、前作の残量、施肥時期に注意する。（特に前作が野菜の場合は施用を控える） ●レタス栽培跡地は原則無肥料とする。 ●管理、収穫作業を便利にするため、通路はなるべく広く取るようにする。 ●水分条件の良い時、施肥、畦立てしマルチまで行う（早ければタバコのように年内でも可、また早蒔きはグリーンマルチも効果大） ●畦立てはなるべく高畦とする。（25cm程度） ●播種前、10日以上トンネルをして地温を高めておく。
播　種	●播種時期　3月中旬～4月下旬直播又は、移植する。 ●オクラの播種は硬実種子のため1昼夜ぬるま湯に浸漬してから播種する。 ●播種要領は1穴当たり5粒蒔きとし（10a2ℓ）指先で軽く鎮圧し、無病の土（育苗床土等）で被覆する。その際、深蒔きに注意する。（注意：播種時の過湿・地温不足は種子が腐敗しやすい。） ●無理な早蒔きは、地温が低いので発芽揃いが悪く苗立枯れ病発生の原因となる。 ●欠株対策として、補植苗を準備しておく。（10a当たり　500本程度）
温度管理	●日中30℃を超えないよう換気に努める。
苗立枯れ病	●生育初期に発生が多いので低温、多湿を避けるように予防対策を徹底する。
トンネル除去	●5月上～中旬頃外気温が15℃を保つ時期の風のない温暖な時にトンネル除去を行う。



10a当たり4444～5050穴、555mの畦長



10a当たり3704～4115穴、741mの畦長

必要な生産資材（10a当たり）

品　名	規　格	2条植え	1条植え
マルチ	150幅	3本	
マルチ	135幅		4本
種子	1㍑10000粒目安	2.2㍑	2.0㍑
トンネル支柱			
トンネルビニール			

詳しいことは地区の担当者又は、栽培講習会等でお聞きください。

花卉

灰色かび病について

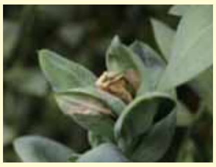
花　卉
竹川　慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

・発生の特徴

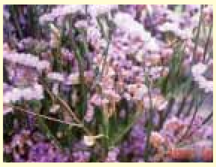
灰色かび病は寄生範囲が広く、ほとんどの植物で発生します。低温多湿を好むので秋口～冬の初め頃の気温がやや低く、湿度の高い、雨が多くて日照が不足しがちな時期に発生が多くなります。発病適温は１５℃～２０℃で結露時間が長くなると多発し、植物体表面やその付近が結露しやすい環境下で発生しやすい。

・被害症状

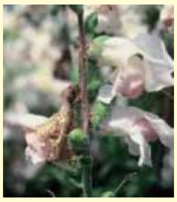
花、茎、葉が溶けるように腐り、さらに病気が進行すると灰色のカビに覆われ、同時に灰色がかった粉(胞子)を多量に形成します。花では始め、花弁に水滴がにじんだ様な跡がつき、白い花では赤い斑点、色のついた花では白い斑点が多数生じます。病気が進行すると花が褐色になり腐ってきて、やがて灰色のカビに覆われます。



トルコギキョウ被害



スターチス被害

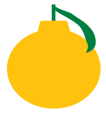


金魚草被害

・防除方法

灰色カビ病は湿度を好むので水のやりすぎに注意し、なるべく晴天時に行います。そしてハウス内は風通しをよくして十分な換気をします。枯れた部分にも病原菌が残っているので取り除きます。病原菌は害虫の食害跡やしおれた花弁、チッソ過多により軟弱に育った植物組織などから侵入するので害虫を防除したり、肥培管理を適切にすることでも予防できます。殺菌剤ではフルピカフロアブル、ボトキラー水和剤、エムダイファー水和剤、ポリオキシンＡＬ水溶剤等が花き類での登録があり、なるべく同じ剤は使わないようローテションでの散布を１週間～１０日おきに散布し予防します。
※農薬散布に薬害などありますので営農センターへお問い合わせ下さい。

果樹



１月の柑橘園管理

果　樹
白石　一斗
上島営農指導センター
080-1729-1633

12 月 10 日時点の果実分析では、露地デコポン全体で糖度約 12 度、酸 1.5%程度でした。昨年に比べると同時期で約 1 度近く糖が高く仕上がっている様です。

今月からデコポンの収穫に入られると思いますが、本年産は収穫後も果皮障害の発生が懸念されています。収穫時やコンテナを移す際できるだけ果実にキズをつけないよう気をつけて取り扱いをお願いします。

1．各品目別の収穫時期について

品種	区分	収穫基準日
デコポン (露地)	レギュラー	1/ 1 より
	こだわり後期Ｐプラス	1/20 より ※簡易被覆のみ
	こだわり葉付きＰプラス	2 / 25 日頃より ※簡易被覆のみ
天草文旦	完熟園	1/20 より
甘夏	レギュラー	1/ 1 より
清見	レギュラー	2/20 より
	健康志向型	2/20 より
河内晩柑	適期採取	2/20 ～ 3/31
	後期採取	4/ 1 ～ 4/30
	木成り	5 月以降

2．中晩柑の収穫と予措・貯蔵

腐敗果防止の為収穫時はできるだけ果実にキズをつけないようにし、下の表を参考に予措を行って下さい。また、デコポンについてはポリ個装が遅れるとコハン症等が発生しやすい為、園地別にコンテナ重をこまめに測り予措が終わり次第ポリ個装を行いましょう。

品種名	予措期間（減量割合）	予措湿度
デコポン	２０日～３０日（3%～5%程度）	８５～９０%
ポンカン	３０日（7%程度）	８５～９０%
甘夏	１４日（3%程度）	９０%
河内晩柑	１０日（3%程度）	９０%

3．樹勢回復対策

収穫が終わった園では速やかにチッ素主体の葉面散布を短期間で行い、樹勢回復を行って下さい。

薬　剤　名	希釈倍数	備　　考
尿素 アミノジューシーＮ１４	500 倍	収穫後３回以上集中散布を行う
神協スピリッツ	500 ～ 1,000 倍	

4．出荷資材の取扱いについて

柄入りポリ袋（デコポン・清見）、Ｐプラス袋（デコポン）、越冬完熟袋（温州みかん）については、こだわり商材袋の為 JA 出荷以外は使えません。JA 直売所等で販売する場合は、無地の袋でお願いします。